

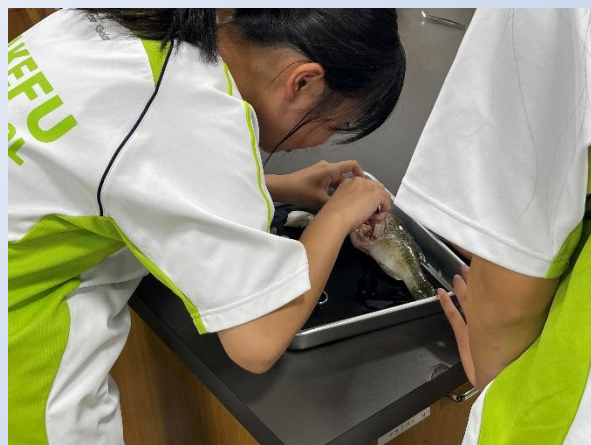
08

1 年探究進学科 校外研修

7月21日(火)に1年探究進学科の校外研修を琵琶湖博物館で行いました。日本最大の古代湖である琵琶湖を扱った博物館で研修を行うことにより、自然や生態系に関する興味や関心を高めました。

博物館に到着後、学芸員の方から「琵琶湖の自然史や生態系」について講義を受けました。琵琶湖が長い年月をかけて形成されてきた歴史や、湖内に生息する多様な生物、生態系を取り巻く環境の変化について学びました。生徒たちは、琵琶湖が単なる大きな湖ではなく、多くの固有種が生息し、人々の生活とも深く関わる重要な自然環境であることを理解しました。

また、研究することの楽しさや奥深さ、やりがいについてもお話いただきました。研究は、必ずしも当初の計画どおりに進むとは限らず、さまざまな状況を想定して複数の計画を準備しておくことが大切であると学びました。さらに、研究の過程で新たに生じた問題や気づきから仮説を立て直し、粘り強く追究していく姿勢が研究者には求められることを教えていただきました。生徒たちは、専門的な知識を身に付けることに加え、予想外の結果を新たな探究の出発点として捉えることの重要性を学びました。



外来魚解剖実習では、2人につき1匹のブラックバスを用いて、グループごとに体の構造や胃の内容物を観察しました。実習の始めには、ブラックバスに触れることをためらう生徒も見られましたが、次第にグループ内で役割を分担し、互いに協力しながら丁寧に解剖を進めていきました。

胃の中からエビや小魚などが見つかり、生徒たちから驚きの声が上がりました。実際の胃の内容物を観察することで、ブラックバスの食性や、在来種を捕食している実態を具体的に理解することができました。